



# 5月園だより

2020年4月28日

川西共同保育園

栄町分園

あちらこちらでこいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいるのを見かけます。五月山のさつきや、猪名川沿いの花水木の花がきれいに咲いていて、気持ちのいい季節になってきましたね。

新年度になり、1ヶ月が経ちましたが、コロナウィルス感染症の拡大により保護者の方々には保育のご協力を頂きましてありがとうございます。まだ見通しもわからない状況でもあり、不安な日々を過ごされているかと思えます。保育園では、毎日10人ほどの子どもたちが来ています。職員も半数以下に減らして過ごしています。畑で土を触って遊んだり、公園でごっこ遊びをしたりして楽しんでいきますよ。にぎやかな子どもたちの声が聞こえないのは本当に寂しいです。この状況から、早く笑い声でいっぱい保育園に戻ることを願います。

## 5月生まれのお友だちおたんじょうび★おめでとう

2歳	7名	3歳	3名
4歳	1名	5歳	6名
6歳	1名		



もっともっとおおきな～れ！！（発行するおたよりでは名前を入れていきます）

🌸ただいま、保護者の方々にご協力頂いている家族コメントを集めて冊子づくりをしています。子どもたちの可愛い写真が入って楽しい1冊になりそうです。お楽しみに！！

### < 行事予定 > 本園・分園

日にち	行事名	参加者
15日	誕生会 & 体側（予定）	園児・職員
27日	避難訓練	園児・職員

### < お知らせ >

- ★現在、登降園の際は、玄関での受け入れにしていますが、連休明けからは子どもたちの人数や登園状況によって変更になる場合はお知らせします。
- ★行事は状況に合わせて行う予定にしています。





病児・病後児保育施設  
おひさまルーム

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発出され、保育園もおひさまルームも、とても静かな毎日です。

おひさまルームの再開のめどはまだ立っていませんが、いつでも利用できるように玩具を作ったり環境を整えたりして準備しています。ブログで情報発信もしていますので時々のでいてみてくださいね。

今を考える機会に・・・

数カ月ほど前までは普通に暮らしていたのに、今は不自由な生活が続いています。

中国の武漢の新型コロナウイルス感染症蔓延のニュースを、他国のことだし、日本は大丈夫という思いで見えていました。クルーズ船でのコロナ感染症の広がりのことも、日本国内のことでしたがどこか他人事のように見えていました。まさか自分たちの生活にふりかかってくるなんて思いもよりませんでした。

川西市は、他市より早く4月7日から保育施設の休園を決めました。皆さんもご存じのとおり、それまでは園内は密集状態でした。子どもたちが給食を食べるときも、寝るときも密接して過ごし、職員も、休憩時間にはお互い向かい合って楽しく会話しながら食事をし、お茶を飲みながら話に花が咲いていました。お迎え時には、保護者の方々がホールや玄関に集まって交流されている光景は日常茶飯の事で、それらの人と人の交流こそ、川共保は大事にしてきたのです。ところが、川西市の休園決定、政府の非常事態宣言以降、登園自粛を皆さんにお願いをし、皆さんのご協力のおかげで、園児数が1/3以下に減った状況の中で保育をしてみると、それまでがなんとリスクが高かったことか。幸いにも感染者を出さず今日まで来ましたが、園の密集状態は、とてもリスクの高い状況だったのではないかと思います。いわゆる3密状態がどこの保育園でもおこっていたのです。もちろん、できる限りの感染予防対策はしてきたことです。

全国では待機児童が多く、それぞれの保育園では定員以上の受け入れを国や市から強いられています。園児が増えれば職員数を増やし、保育園は、常に過密状態なのです。新型コロナウイルスが未知の感染症のため、今までの私たちの習慣や生活が通用しないのかもしれませんが、保育園でいえば、適正人数や保育そのものを違った観点から見ることも必要になるかもしれません。

先日テレビを見ていると、ストレス軽減に「オキシトシン」という物質が有効だと言っていました。この「オキシトシン」は、愛情ホルモンといわれているようで、他者との触れ合いが効果的だとか。そして人人との交流によって分泌されるそうです。今、人と人との交流を避けるように言われ、触れ合うことが感染リスクを高めるといわれているので、よりストレスを感じていると思います。「オキシトシン」を分泌させるためには、触れ合うことが最もいいそうですが、触れ合わずとも、信頼している人と電話で話すだけでもいいそうですよ。その時に、片手に電話、もう片方にクッションなど軟らかいものを抱きしめながら話すより効果がでるそうです。(NHKのためしてガッテン)

今のこの状況をネガティブにとらえるのではなく、今まで変えられない原因となっていたことを探り、思い切って新たなことをやってみることもいいのではないと思う日々です。

園長 南 博美